

日本ユニシス株式会社

2012年3月期決算説明会（2012年5月10日開催）

主な質疑応答

（ご理解いただきやすいよう表現を変更している箇所があります。）

【2012年3月期の業績について】

Q：2012年3月期営業利益の前期比での増減要因を解説してほしい。特に、コスト削減に関しては、構造的なものの一時的なものに分けて教えてほしい。

A：不採算案件の発生などにより売上総利益は23億円の減益となったものの、販管費を31億円圧縮したことにより営業利益は8億円の増益となった。コスト削減策として構造的に取り組んだものとしては、事務所統合等による事務所経費の削減や一般経費を引続き圧縮したことである。一方で、業績連動に伴う人件費の大幅な減少は、一時的に取り組んだものと位置づけられる。

Q：これまでの様々な取り組みにもかかわらず、大型の不採算案件が発生した理由を聞かせてほしい。

A：現行機能保証の部分や、お客様のビジネス環境の変化を前提としたシステム開発プロセスなどに課題があり、お客様とのリスク共有を含めて、あらためて点検および強化する必要があると考えている。なお、今回の不採算案件については、本番稼動に向けたプロジェクト管理を更に強化して、万全な体制で臨んでいる。

【2013年3月期の業績予想について】

Q：2013年3月期は、不採算案件の減少が大幅な増益要因となるにもかかわらず、営業利益予想が前期比17億円増益の90億円に留まる理由を確認したい。

A：現状では新たに赤字引当が見込まれるような具体的案件はないものの、15億円の不採算発生リスクをみていることや、戦略的に受注していく新規ビジネスへのリスクもある。また、業績連動による人件費増などにより販管費は20億円増加すると見込んでおり、これらを総合的に勘案して、営業利益は前期比17億円増益の90億円と見込んでいる。

Q：2012年3月期は大型賃貸契約の終了の影響が大きかったが、今期見通しにはメインフレームの減益をどの程度織り込んでいるのか教えてほしい。

A：今期はメインフレームの更改案件が複数予定されていることから、前期比で増益となる見込みである。

【2014年3月期の予想について】

Q：2014年3月期の業績計画について、見通しの根拠を教えてください。

A：メインフレームビジネスでは、2014年3月期は、前期からの反動減が加わり、かつ契約終了予定案件もあることから、前期比での大幅な減益を予想している。一方で、事業構成や規模の観点からは現在の人員数が多いと認識し、人員削減等による人件費圧縮の効果がメインフレームビジネスの減益要因を上回ると考えている。

Q：2011年12月に中期経営計画を公表した後に繰延税金資産を取り崩す等の事態が発生したが、中期経営計画の公表時点から前提条件に変化がないのかを確認したい。

A：中期経営計画の公表時点から、2015年3月期の売上および利益計画の前提条件に大きな変化はない。2012年3月期での純損失計上により、財務体質に関しては、自己資本の推移見通しを修正した。さらに、年金未認識債務に関する会計基準の変更が予定されたことから、今回新たに2014年3月期以降の見通しへ反映したものを公表させていただいた。

(注)本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。